自動運転実証調査事業について (小牧市地域公共交通会議での書面協議結果)

1 協議事項

自動運転実証調査事業について

2 協議方法

小牧市地域公共交通会議の各委員に対し、書面により協議内容を通知し、書面協議書の提出を依頼した。

3 協議期間

令和5年12月22日(金)から令和6年1月5日(金)まで

4 協議結果

意見あり 6名 意見なし 16名

5 書面協議での委員意見とそれに対する市の考え方

別紙参照

報告事項(1)自動運転実証調査事業について 書面協議での委員意見とそれに対する市の考え方

委員名	委員意見	委員意見に対する市の考え方
川本委員	前回の公共交通会議でもいくつか意見があった	令和5年10月13日に開催した会議では、名鉄バス㈱大野委員、愛知県尾張建設事務所吉金委員、国土交通省中部運
(名古屋鉄道㈱ 地	かと思いますが、バス事業者、タクシー事業者との	輪局本田委員(宮川委員代理)、愛知県タクシー協会安藤委員、小柳委員から、他の交通への影響等についてご意見をい
域活性化推進本部	調整協議が調っているならば問題ありません。	ただきました。その後、個別に協議を行い、調整を図りました。
地域連携部長)		
大野委員	1. 令和5年10月13日開催された小牧市地域公	1 令和5年10月13日に開催した会議では、名鉄バス㈱大野委員、愛知県尾張建設事務所吉金委員、国土交通省中部
(名鉄バス㈱ 運	共交通会議で、本件について各委員より運行経路	運輸局本田委員(宮川委員代理)、愛知県タクシー協会安藤委員、小柳委員から、他の交通への影響等についてご意見
輸本部首席交通企	上における緊急車両、一般車両及び路線バスへの	をいただきました。その後に、個別に協議を行い、下記のとおり調整を図りました。
画官)	影響について指摘や意見が出されたが、それに対	緊急車両の走行に対する運行については、令和6年1月 11 日に小牧市消防本部と協議を行い、一般車の対応と同
	する説明がなされていない。	様に、運転手が手動操作により車両を道路の左側に寄せて停車させるよう調整を図りました。また、運行事業者であ
	2. 弊社の既設停留所と本事業の停留所の併設につ	る BOLDLY 株式会社に対して、小牧市民病院が近く緊急車両の通行の多い地域であるため、協議内容を運転手に周知
	いて、事前説明では2か所の併設を要請され調整	するよう伝えました。
	を図っていたが、協議資料では説明もなく4か所	一般車両への影響については、愛知県警察本部(小牧警察署を含む)、愛知県尾張建設事務所、小牧市建設部道路課
	に増えている。	と協議を行い、渋滞等の対策については、平日の朝やタ方のラッシュ時を除いた時間帯に運行するとともに、自動運
	3. 本事業の運行ダイヤが、既存の路線バスの運行	転車両の後続車が追い越しできるよう、運行区間内に停止箇所の増設(バス停の増設)を行いました。また、運行ル
	に影響を与える可能性が大きいと思われる。	一ト上に自動運転の公道実証調査中である旨を表示した看板を設置し、運行ルートを通行する方や周辺住民への周知
	4. 弊社としては、現段階では、周辺道路の交通環	啓発を行っています。なお、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のない右折箇所への警備員の配置など、安全対
	境の変化による安全面の懸念が拭い去れず、事業	策を行いました。
	者間調整が必要と考える。	路線バスへの影響については、名鉄バス㈱、あおい交通㈱、豊山町産業建設部(とよやまタウンバスの運行管理者)
		と、それぞれ個別に協議を行った後、それぞれの運行事業者が運行時におけるルールなどを共有するため、令和6年
		1月31日に合同の会議を行いました。
		2 バス停の設置については、渋滞緩和や利用者の利便性などの観点からより多く設置できるよう、様々な場所での設
		置検討を進めてきました。令和5年12月27日に名鉄バス㈱にご説明させていただいたとおり、中央図書館南側にお
		いては、自動運転車両の後続車が追い越しできるよう、バス停車帯のある箇所とし、名鉄バスのバス停と併設するこ
		ととしました。また、西源寺・西林寺前においては、シェルターやベンチなどのバス待ち環境を整備した箇所とし、
		こまき巡回バス「こまくる」及び名鉄バスのバス停と併設することとしました。
		3 本事業の運行ルートが、既存の路線バスの運行ルートと重なる路線は、名鉄バス㈱が運行する近距離高速バス名古
		屋・桃花台線、岩倉線(小牧市役所前経由、小牧市民病院経由、桜井経由)、春日井市内線やこまき巡回バス「こまく
		る」、ピーチバス、とよやまタウンバスがありますが、全ての路線とダイヤを調整して運行することは困難であります
		ので、それぞれの運行事業者が運行時におけるルールなどを共有するため、令和6年1月31日に合同の会議を行い、
		路線バスとバス停で運行が重なった場合には、路線バスの運行を優先するようにしました。
		4 一般車両や路線バスへの影響については、上記1のとおり、関係機関等と安全対策などについて協議を行いました。

(国土交通省中部 自動運転を実施する道路において、交通設帯が生 ともに、運行ルート周辺住民をはじめとした関係機関への 酒 「	
	もに、運行ルート周辺住民をはじめとした関係機関へ
「席運輸企画事 いて混雑するおそれがある旨を周知等して頂きま 今和5年10月13日に開催した会議では、名鉄バス事 が果	中である旨を表示した看板を設置し、運行ルート
# 1 ようご配慮のほどお願いします。	
9 県尾張建設 にバス運行に関する安全対策等の記述が見当たら 輪局本田委員 (宮川委員代理)、愛知県タウシー協会安別所維持管理課 ない。以下の2点について、確認したい。 1 自動運転実証調査の内容について、市の広保誌やである 2 公報掲載やHPでの周知は当然と考えるが、運行 とともに、運行ルート周辺住民をはてひとした関係材 道実証調査中である旨を表示した者板を設置し、運行を第一を数パス等路線ベスの定時運行確保対策 2 渋滞等の対策については、愛知県警察本部(小牧智報 2 渋滞等の対策については、愛知県警察本部(小牧衛出 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (木足海板を設置し、運行の場出 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (木及の道路に乗び、ボラカー 2 渋滞等の対策については、愛知県警察本部(小牧衛のは 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (木及の道路を設置し、本方ところ、使用 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (木及の道路の連続表 2 ともに、運行ルート周辺住民を注の上の事業を設置し、本方と、連転 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (木及の油間に 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (スス停の地間 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地段 (スス停の地間 3 をよう、運行区間内に停止箇所の地で 4 を表の 5 をまたいでは、平田の朝やケカのラッシを 5 を 5 を 3 を 3 を 3 を 3 を 3 を 3 を 3 を 4 を 4 を 4	5年10月13日に開催した会議では、名鉄バス
	局本田委員(宮川委員代理)、愛知県タクシー協会安
 1. 一般交通利用者への周知方法 1. 一般交通利用者への周知方法 ・公機場様やHPでの周知は当然と考えるが、運行 ・後方警戒車の導入、沿道への看板設置、プラカー なお、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のない下の相比、変知県警察本部(小牧警報会) 2. 自動運転時に発生する後方の道路混雑の回避対 2. 自動運転時に発生する後方の道路混雑の回避対 2. 自動運転時に発生する後方の道路混雑の回避対 ・緊急車両への進路線及(市民病院への教急機送か) ・緊急車両の通行を対して、市の広報話を加入などの地間である方向を表示した音板を設置し、運行を開内に停止箇所の増設(バス停の増高・緊急車両への進路が反(市民病院への教急機送か) ・緊急車両への進路機関が通行するなど交通量が比較 が象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 対象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 対象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 な道達配調査中である旨を表示した者板を設置し、なりたが、発達時や右折時などは、周囲の通行者双方 っな道実配調査中である旨を表示した者板を設置し、すっ また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 すたい。 すた、発進時を指し等による交通誘導も検討さいます。 カたい。 おたい。 は配調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続きと また、報告はと引き続きと また配はしまるでは、事件度も引き続きと 	きました。その後に、個別に協議を行い、下記のと
 ・公報掲載やHPでの周知は当然と考えるが、選行 とともに、選行ルート周辺住民をはじめとした関係移	自動運転実証調査の内容について、市の広報誌やホー
## 190 周知が必要	ともに、運行ルート周辺住民をはじめとした関係機
	実証調査中である旨を表示した看板を設置し、運行
下の掲出、交通誘導員配置 等々	、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機
2. 自動運転時に発生する後方の道路混雑の回避対 2. 渋滞等の対策については、愛知県警察本部(小牧警	\rightarrow
	渋滞等の対策については、愛知県警察本部(小牧警
・発鉄バス等路線バスの定時運行確保対策 るよう、運行区間内に停止箇所の増設(バス停の増置 ・緊急車両への進路確保(市民病院への救急搬送ル (中下確保) (市民病院への救急搬送ル 様に、運転手が手動操作により車両を道路の左側に対象を見 なります業の使用車両は低速走行するところ、使用 (対象事業の使用車両は低速走行するなど交通量が比較)が追い越しできるよう、運行区間内に停止箇所の増設(対象を)を対象にあるため、渋滞等に配慮した対策をといる。 よう伝えました。 交通課長) (お参り、環境にあるため、渋滞等に配慮した対策を)をいったは、平日の朝や夕方のラッショまた、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方といった。 す。 が定いたい。 また、外牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討された。 す。 加表員 実証調査は問題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き	を行い、平日の朝や夕方のラッシュ
 ・緊急車両への進路確保(市民病院への救急搬送ル (本) 「上・確保) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	よう、運行区間内に停止箇所の増設(バス停
(本)	急車両の走行に対する運行については、令和6年
 五 か象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 次	に、運転手が手動操作により車両を道路の
五委員 対象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 渋滞等の対策については、平日の朝や夕方のラッシ=要知 単小 牧警 道路は公共交通機関が通行するなど交通量が比較 が追い越しできるよう、運行区間内に停止箇所の増設 られたい。 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ ています。 れたい。 おたい。 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のない またい。 ま 証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き 4	BOLDLY 株式会社に対して、市民病院が近く緊急車
垣委員 対象事業の使用車両は低速走行するところ、使用 渋滞等の対策については、平日の朝や夕方のラッシ= 愛知県小牧警察 道路は公共交通機関が通行するなど交通量が比較 が追い越しできるよう、運行区間内に停止箇所の増設 交通課長) 的多い環境にあるため、渋滞等に配慮した対策をと の公道実証調査中である旨を表示した看板を設置し、す。 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ 柳委員 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き	う伝えまし
受知 県小牧警察 道路は公共交通機関が通行するなど交通量が比較 が追い越しできるよう、運行区間内に停止箇所の増設交通課長) 的多い環境にあるため、渋滞等に配慮した対策をと の公道実証調査中である旨を表示した看板を設置し、 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機のないの安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ ています。 れたい。 規たい。 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き<	等の対策については、平日の朝や夕方のラッシュ
交通課長) 的多い環境にあるため、渋滞等に配慮した対策をとった。 られたい。 す。 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機の安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さっています。 れたい。 れたい。 物委員 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き	しできるよう、運行
5れたい。 また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機の安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ ています。 れたい。 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き	実証調査中である旨を表示した看板を設置し、
また、発進時や右折時などは、周囲の通行者双方 また、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信号機の安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ ています。 れたい。 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き	
の安全確保から、警備員等による交通誘導も検討さ ています。 れたい。 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き今年	た、小牧山南麓ガイダンスエリアなど信
れたい。 実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き今年	#
実証調査は課題を洗い出すためのものであり、次 自動運転の実証調査については、来年度も引き続き今年	
	動運転の実証調査については、来年度も引き続き今
(小牧市公共交通 への前進に結び付くことを期待します。 とで、交通に関わる調査検証をさらに深めることはもとよ	で、交通に関わる調査検証をさらに深めることはもと
<u>地労者</u>) 性などに関しても調査検証が可能となるものと考えていま	どに関しても調査検証が可能となるものと考えてい